

はじめに

ヒトの起源は約100万年前という。ウイルスはそれより早い起源と考えられている。このウイルスが絶えることなく存在できているのは、その狡猾さや特殊能力によるものと推測される。一番の狡猾さはヒトの細胞に寄生し生存し増殖する生命体であるということ。特殊能力とは、細胞を持たない極めてシンプルな生命体にも関わらず遺伝子情報を持つ生命体と考えられ、科学的エビデンスはないが、思考することも可能と思われるかのようなふるまいをすることである。彼らはヒトの天敵であり、彼らが猛威をふるうとき、ヒトは生命の危機に襲われる。

今から約100年前の1918～1920年、A型インフルエンザのパンデミックが起きた。いわゆるスペイン風邪である。世界の感染者6億人、死者2,000万から4,000万といわれた。本邦でも当時の人口5,473万人に対し、2,380万人が感染し死者は38万人超と言われる。当時の医療レベルからすれば当然の数字であろうが、発生源が欧州とされるウイルスが、当時、海外との行き来が少ない本邦にもこれだけの感染を惹起した脅威は計り知れない。そのパンデミックに100年後の現在、襲われているのである。

新型コロナウイルスの世界の感染者約1億1,406万人、死者約253万人、本邦の感染者約43万人、死者約7,900人(NHK特設サイト2021年3月1日現在)である。医学はこの100年、信じられないくらいの発達をしているにも関わらず、この数字はウイルスがいかに狡猾でいかに賢いかを物語るものである。

さて、序論が長すぎたが、新型コロナウイルスによる本会への影響は図り知れないものがある。2020年4月に発せられた緊急事態宣言に従い、4月、5月は事業を停止した。この収入減は実に4億円に上る。この4億円減はその後、われわれを苦しめていることは想像の域を超える。筆者は今まで、平和のただ中にいた。管理者として初めて直面した危機に、ウイルスの怖さをつくづく思い知らされた昨今である。

しかし、わがスタッフはウイルス以上に強靱で賢いことを、最近、実感として味わっている。スタッフの賢明な努力で、4億円の減収が少しずつ改善されているのである。だが4億円のすべてを網羅・回収することは物理的に不可能である。それが証拠に今年度の賞与を断腸の思いで減額させるしかなかった。いずれにしても本会のスタッフの強靱な精神力と、労働意欲、責任感に心から感嘆し、感謝する1年であった。

今後、もちろん予断は許されない。唯一の希望はワクチンである。これがスペイン風邪の時との相違である。現在、mRNAワクチンが主流であるが、大阪大学が、バイオベンチャーのアンジェス社と開発中のDNAワクチンにも期待したい。大腸菌のプラスミドDNA製造技術を用いたワクチンであり、安全性が高いといわれている。こうした取り組みにより1日も早く事態が収束し、従来の本会のペースをとり戻せるよう願っている。

2021年3月

公益財団法人東京都予防医学協会
理事長 小野良樹